

- 滋賀県内初！手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入
- 先進医療のご紹介
- 第6回「まごころ職員大賞」が決定
- シリーズ「医療用語解説」第1回
- 寄せられたご意見と回答

## 滋賀県内初！手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入

病院管理課経営企画室

今年3月、内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」を滋賀県内で初めて導入しました。ダ・ヴィンチを使った手術では、医師が3D画像を見ながらロボットを遠隔操作することにより、安全で正確な手術を行うことができます。



医師はモニターに映る高解像度の3D画像を見ながら、電気メスやカメラなどの器具を取り付けたアームを遠隔操作します。このアームは人間の手首よりも細かい動きが可能で、手ぶれ防止の機能を備えており、また、カメラは自由にズームできることにより、医師を補助し、負担を軽減することができます。



遠隔操作する医師

患者さんにとっても、手術中の出血がこれまでの内視鏡下手術に比べて半分程度にまで抑えられ、傷口も小さいため回復が早く、負担が少なくなるというメリットがあります。

当院では、泌尿器科において、前立腺がんの全摘出手術に使用します（保険適用対象）。今後は、子宮頸がんや大腸がんなどへの導入も考えています。

去る5月2日(木)には、手術実施に向けて、執刀医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士によるデモンストレーションが行われました。器具の組み立てから始まり、記録写真を撮りながら、ひとつひとつの動作を確認しました。この模様は新聞やテレビ等で広く報道されました。



取材を受ける柏木病院長と成田講師

5月15日(水)には、1例目となるロボット支援前立腺全摘除術が泌尿器科成田講師によって施行されました。術後経過も問題なく、患者さんは5月23日(木)に退院されました。